

しんがく 伸楽だより

第9号
2014年4月30日発行
伸楽ひふみ学園
〒921-8801
石川県野々市市御経塚5-54
(076) 227-9878
<http://jaa-nkssc.main.jp/>

「伸楽」とは... 押しつけられたり、しなければならぬからいやいや学んだりするのではなく、一人ひとりが学ぶ意味を見つけ出し、喜びの中で輝き成長する教育、それを目指す考え方です。
伸楽ひふみ学園はこの伸楽の考え方に基づいた、小中学生のひふみ塾・中等部・高校（通信制課程）の学習支援センター・大学（通信制課程）のサテライトカレッジ・就労支援のためのNPO団体を併せ持つ総合学園です。

旅立ちと...

3月7日、伸楽ひふみ学園の卒業証書授与式が行われました。今回晴れて卒業を迎えられた生徒は西金沢6名、七尾1名の計7名。みんな3年間、よく頑張りました。この度は、本当におめでとうございます。

学園長の祝辞から始まり、来賓の方の祝辞や卒業証書の授与、職員一人ひとりからのお祝いの言葉が続きました。

みんな入学当時からすると、ずいぶん大人びた顔立ちになりました。そんな彼らをお祝いしに、昨年卒業したセンパイたちも駆けつけて喜びを分かち合いました。きっと今回卒業するみんなも、彼らのように大きくなった背中を後輩たちに見せてくれる日が来るのでしょう。



新しい出会い。

4月7日は26年度入学式「始まりの会」でした。今年入学してくてくれた生徒は転入生2名を含む10名。2年生・3年生たちもお祝いに駆けつける中、新入生たちは緊張した面持ちで入学式に参加してくれました。

学園長や日本航空高校の来賓の先生からの祝辞や職員からのお祝いの言葉、なんな先生のクリスマスボルシチ演奏会など“伸楽ひふみ学園らしい”入学式のあと、全員でお菓子和ジュースを囲んで歓迎会を行いました。これからひとつひとついろんな経験をして、先輩たちのように立派になっていってくれることでしょう！



兼六園でお花見！素敵な交流イベント

新年度が始まって1週間の4月11日、1年生たちはまだ初々しさが残るこの時期に、毎年兼六園に出掛けてお花見をしています。

10時半過ぎに電車に乗って金沢駅に行き、そこからバスに乗って兼六園へ。この時はちょうど春の無料開放の日でした。それに今年はちょうど見ごろで桜が満開、お天気にも恵まれましたよ～。

園内をしばらく進んで、兼六園でも有名な観光スポットの日本武尊（やまとたける）像の前を通ったところにあるお茶屋さんでお団子を食ったり、ことじ灯籠や大きな桜の前で記念撮影をしたりして春の兼六園を満喫しました。

その後、お昼ご飯を食べるために、スタッフの提案で大きなベンチのある石川城址公園へ移動。



■ 青空のもとで食べるご飯は、いつもよりも格別でした。あまり交流のなかった生徒同士も少しずつ距離が縮まった様で、一緒にご飯を食べたりお喋りして笑い合ったり、素敵な変化が生まれたようです。もちろん入学したばかりの1年生たちも、みんなと一緒に楽しんでいましたよ～。

■ ご飯のあとはせっかくなので石川門の中を見学し、当時の建物の様子を眺めました。また、石川城址公園も桜が見事だったので並木道をみんなで歩き、満開の桜を堪能しました。写真もたくさん撮りました。全員で集合写真を撮ったり、女の子だけだったり3年生だけだったりして記念撮影をして、みんなで思い出をたくさんたくさん残せたお花見会でした。



先生も!

生徒達、意欲にあふれています

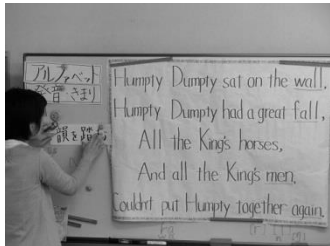
新年度に入り、今年入ってきてくれた1年生たちは学習意欲が高い子がとても多いような気がします。そうすると先生たちも負けてはられませんね。

というわけで、今月からまた新たに専門講師の先生がお手伝いに入ってくれることになりました。

担当は英語。

1年生や上級生の中にも、英語を学びたい、という意欲を示す生徒がたくさんいることが分かったのでグッドタイミングです。

毎日ではありませんが、これから定期的に楽しく英語に触れる時間を作っていこう、ということで4月の中旬、先生たちは集まって作戦会議を開きました(笑)。



その他にも、身体を動かすことが好きな生徒のために定期的に野々市市の体育館に出掛けよう、ということにもなり、みんながやりたいことをひとつずつ形にしていこうというそんな空気感にあふれています。

「もっとこんな事がしてみたい!」や「こういうことを教えてほしい!」というリクエストがありましたら、遠慮なく言って下さいね。

実現までに時間がかかるものもあるかもしれませんが、やりたいことが出来る学校を目指して環境を作っていきたいと思っています。

就労にむけたつながりの輪

伸楽ひふみ学園では、ソーシャルスキルを高めることを含め将来の就労のために在学中からアルバイトを推奨していますが、その他に高校卒業後の支援として就労を支援するNPO団体も持っています。

これは一人の人を活かす(生かす)という理念のもと、最終的には社会に出て働けるよう、高校卒業後も必要に応じて一人ひとりに適した仕事や進路のサポートをしていきたいと考えているからです。

そのため高校3年間だけではなく継続的な支援を視野に入れて一人ひとりと向き合っています。

2月の中旬にも、昨年暮れに出来た就労移行支援事業者さんから連絡をいただき、色々とお話を伺うことが出来ました。その団体も一人ひとりに向き合い、パソコンスキルや清掃の技術を丁寧に教えてくれる事業所さんの様でした。

今、石川県ではこのような就労移行支援の事業所さんが次々と誕生してきています。5月にも1か所、就労支援事業所が生まれると聞いています。

最終的にはみんな就労に結びつき、そこで継続的に働き続けられることが求められますのでそれぞれの事業者さんに長所があり、常に連携を取れるということはとても安心感があります。

◎ヴィスト 金沢センター/西金沢センター
<http://visst.co.jp/>

◎障がい者就労継続支援 A型事業所 みらい
<http://www.ties-kizuna.com/>

◎えがお工房 8たん
<http://egaokobo8.com/>

子育てのワンポイントアドバイス その8

■原点

21歳のくらいの時のこと。

とある婦人部で、講演会が行われて、保育室を初めて手伝うこととなりました。その時に一緒に保育していたのが、今の私くらいのおばちゃんたち。

そこで、初めて預けられた女の子の一人は誰があやしても泣き止まなかったのです。

その女の子がどういう経緯で私の手に預けられたのか覚えていないのですが、たぶん、放置されたまま泣いているその子を見るに見かねて進んで膝の上に抱っこをしたのだと思います。

するとそのうちに、その子は私の膝の上で泣き止んだのです。まわりの大人たちはびっくりしていました。何かをしたわけではないのです。

ただ、その子が泣きたいのだから、泣かせてやろうと思ったのです。

「泣いてもいいんだよ」という安心の場が、その子に伝わったのです。

新入生を迎えるたびに、私はその支援の原点を思い出します。

オリジナルエコバッグづくりに挑戦!

2月のはじめに行なわれたハンドメイド講座は、午前中プレートに白い絵の具を塗ったり石鹸にデコパージュを施したりして、いつもの作品作りに取り組みました。

午後からのハンドメイドは女の子や1年生も加わってのスタート。この午後のハンドメイドでは、生徒たちは新たな作品作りに着手しました。

まっさらなエコバッグにデコパージュを施しての、オリジナルバッグ作りです。

作り方はとっても簡単!市販のバッグの一部を白く塗ってそこに紙ナブキンを貼り、防水ニス塗って出来上がり!これだけで、世界にたった一つのオリジナルバッグの出来上がりです。

好きな画像をプリントして、完全オリジナルのエコバッグを作った生徒もいました。アイディア次第で、お気に入りの一点物が出来るのがいいですね。



新入生、おめでとう！

佐藤 公一

伸楽ひふみ学園（以下、学園）も開校5年目に入り、より充実してきました。

生徒は小中学生のフリースクールを含め80人を超え、教員も11人になりました。

今年の3月の卒業生は9名、新入生は11名、その中で新1年生が9名、他校からの転入生が2名です。

先生もこの新年度から英語のスペシャリストの先生が1名加わりました。

今年度の生徒の特色は、勉強が好きな生徒が多いことです。毎日、学校が始まる30分くらい前に来て勉強のスタンバイをしています。

新年度が始まったこの時期の1年生は教科書が届くまでの間、毎年過去の復習の時間にあてています。特に数学、英語中心に総復習しています。今年入った英語の先生、そして数学理科の先生も加わり、楽しみながらの総復習です。学園の授業は一切黒板は使わない個別指導型授業なので、やる範囲は生徒によって全く違います。新1年生の一人ひとりを見て、数学は九九から、英語はABCの小文字からスタートするという生徒もいれば、大まかな基礎は出来ている総復習という生徒もいます。

このように、はじめに総復習をする流れが出来たのは、ここの学園の場合本校事務局の都合で教科書が届くのが入学後の少し後になる傾向があるため、これを逆に利用して、毎年ゴールデンウィーク辺りまでは総復習機関としているわけです。ただ、九九から始めるくらいの生徒は、教科書が来ても、並行して復習を続けますが。

勉強のほか、入ってすぐに一人ひとりの時間割作りもします。

時間割作りの大きな流れは、まずは欲求（～したい）に則した適職探しシートというものがあり、それを活用します。これでその生徒の興味の方向性が分かり、この興味の方向性をもとに、13歳のハローワークという、

13歳の子供が読むたくさんの職業が載っている本でその生徒が興味を持っている欄の職業の目次の中から自分がワクワクする職業に印をつけてもらいます。

この時の注意点として、「頭で考えるな」と言います。

頭で考えると、どうしても常識やコンプレックスなどで、これはオレには出来ない、とかこんなものになれっこないとか、になってしまうので、頭ではなく「心で考えろ」と言います。心がワクワクするものに全部印をつけてごらん、と。自分がワクワクするものにコンプレックスとか常識は介入しないので、このやり方でやるといういろいろと印がつかます。

また、この目次に載っていない職業で自分がワクワクするものを思いついたら書いてもいいよ、とも言います。さらには、こんな職業はないだろうと思うものでも、思いついたら勝手に自分で作って書いてもいいよ、とも言います。

皆、楽しそうに取り組んでいます。

そして最終的に、この中で一番ワクワクするものを一つ選んでもらい、これを仮の目標（夢）にします。“仮”というのは、もっとワクワクする夢、目標が見つかったら、変えてもいいよという気楽さを出すためです。一回夢を作ったら変えちゃダメとなったら、萎縮しちゃいますからね。ちなみに時間割自体も途中で帰れたりします。

入学したばかりの頃は、始めはなんの夢も目標もない生徒たちが大半ですが、このやり方で夢づくりをすると皆、1時間くらいで夢、目標が出来てきます。この夢を叶えるための高校3年間だ、このために勉強するんだ、とハッキリさせてから、教師と一緒に「楽すぎずキツすぎない」その生徒に応じた時間割表を作っていくのです。

夢、目標が出来ているので皆目を輝かせ時間割を作っています。

何はともあれ、新入生のみなさん、入学おめでとう！私たちが家族と思い、これから宜しく願います。

応援しています！

私の教育ガイダンス ①

これから数回に分けて、佐藤公一が提唱する教育の基本を連載します。

§ 子育ての目的は成熟した大人に育てること §

※他の言い方をすると、その子を輝かせることを目的にするということ。または、その子を活かす（生かす）事を目的にするということ。もっと平たく言うと、その子の大人力を育てることが教育の目的です。

※健常の子の大人力とは、自立力。

知的障害、発達障害のある子の大人力とは、調和力。
※なんでもそうですが、何事をするにもまずは目的が大切なのです。

教育とは、子供に好かれることが目的ではないのです。

※真の大人力とは、大人の成熟さと子供の自由性を持った人を行います。年齢は関係ありません。こういう事を知り実行すれば、14、5歳で成熟した大人に育てる事が可能です。

§ 選択させる指導を柱とする §

自ら「選択」することによって、同時に「責任」が生じます。例えば、「～をやることを選択します」にしても、やることに責任を取る、やめることに責任を取る、というように選択には必ず責任がセットになるのです。

- ◇ そう、選択させる事によって、責任力を鍛えられるのです。ですので、「～しなさい。」という指導よりも、こちら（親、教師）側が大人としてのアドバイスをした後に、あなたはどのようにしたいの？と選択に導くと良いです。自立力（大人力）の柱は、責任力だからです。

◇ 要するに、選択させる指導が成熟した大人に育てる教育の土台になります。

◇ ※知的障害のある子の場合は…選択させる指導よりも、ルールルールで育てたほうが効果的です。

※発達障害（主にアスペルガー）のある子の場合は…相手（子供）の独特なワールド（世界観）を認め、演出（お芝居）して、指導者から見て良い方向（輝く方向）を自らで選択するように持っていくます。（つづく）

